

# 白雪皚々の 國境慰問行

池田生

(一)

我が朝鮮新國境の主權にかゝる、  
第十三回國境慰問に際し、私は東  
二回慰問として白頭山麓、咸南  
國境の第一線において日夜奮闘を  
してをられる慰問隊、朝鮮義勇隊を  
初め憲兵隊員、郵便所員、警察所  
員、税關吏、學校、病院職員、家  
族の方々を慰問申上げると共に、  
後方民衆の慰問と赤誠をお傳へす  
るの爲に、野田本社慰問隊長と共に

を出發、一路咸南の國境へ向つた  
のである。咸南國境の慰問は私に  
取つて第二回目の慰問行である  
もう足掛五年にもなるが、丁度昭  
和十年の慰問に際して私は咸南に  
派遣せられたのであるが、それだ  
けに私に取つては忘れざるの出来  
ない思い出である。當時の人は  
皆元氣だつたか、  
慰問申上げたものは勿論なく只  
私達は出た人のお話を聞かせ  
て頂く事が出来ればそれで満足

といつて咸南の溪に立寄つた白  
頭山麓の勇士達は、今はどうして  
るであらうか、又慰問する者、慰  
問される者が胸迫り一言も挨拶を  
交す事すら出来ず、只咸南の溪に  
置つた絆を見交すといつた有様で  
あつた。苦るしかつて當時の慰問  
行であつただけに、生々しい當時  
のさまざまの記憶がはつきりと頭  
に浮かんて来るのである。

しは方角さへ違ふといつたへま  
を脱した位で、國境線北緯の都  
として地元の人々が喜劇と御目饗  
されるのも驚たどうなすかれた  
しかし、慰問隊が發展したからとい  
つて、四暴めくなき其罪の妻は信  
へてきたかといへば決して  
てどうでもないのである。最近に  
ける慶幸の消息は非常に巧妙と  
なり北支那戦線において勇猛果敢な  
日本軍が朝鮮に打ちのめされ  
た。朝鮮が連日軍法ではかなは  
ぬと見てアメリカ軍を押し出さ  
やうに、最近では韓共がこのゲ  
ラ戦をもつて國境線南緯を突破  
に備へており、暴徒連隊の兇  
暴さに全國民の肝を振動せしめた  
天啓的警報作へ捲き起したの  
である。まあ慰問の現狀は那  
場に照るとして、無事第一目的の

野田本社慰問隊長と私は、早連山麓  
に起き慰問隊長より職員や家族の  
家々を御慰問申上げた上、更に當  
の目標を遂行した事であるが、  
僅半年間の間に、各所の戦部の方  
々は殆ど全部焼けてをられた、五  
年前と變りなき國境線南緯の方々の  
ために新裝隊からわざわざ出張  
して来て下さつた角谷支隊長と私  
の四人が出席した事である。席上  
國境線南緯に海軍してをられる  
高瀬敏彦氏を始め、松山湖大幹事  
當時局下國境線南緯の第一線に立つ  
て活躍してをられる多数有志の方  
々の以前にも増して元氣となつた  
顔を見つけた時、嬉しさを感せず  
にはをられなかつた。席上、慰問隊長  
を中心とする時局談や國境の難境、敵  
軍の襲撃に談話風波に花を吹かせ  
た後、懐かしい四季の慰問、つい  
ぶりに御前申上げた事について、  
これを御前におよぶ事とする。

三密においで我々一行のために心  
を配られた花に頬が紅くなる。

慰問する身がかへつて慰問せ  
られてゐるやうな気がしたが、折  
角の指きに預り野田本社、松田  
野田本社慰問隊長、更に私を出迎へ  
たために新裝隊からわざわざ出張  
して来て下さつた角谷支隊長と私  
の四人が出席した事である。席上  
國境線南緯に海軍してをられる  
高瀬敏彦氏を始め、松山湖大幹事  
當時局下國境線南緯の第一線に立つ  
て活躍してをられる多数有志の方  
々の以前にも増して元氣となつた  
顔を見つけた時、嬉しさを感せず  
にはをられなかつた。席上、慰問隊長  
を中心とする時局談や國境の難境、敵  
軍の襲撃に談話風波に花を吹かせ  
た後、懐かしい四季の慰問、つい  
ぶりに御前申上げた事について、  
これを御前におよぶ事とする。

三密においで我々一行のために心  
を配られた花に頬が紅くなる。

當時汽車は包頭迄で此處から積野  
に獲はれた数十キロの鐵路を自動  
車や馬の背に跨がって、ガタゴト  
と野山に向つたのである。  
「僅か五年の間に國境も便利に  
なつたものですね……」  
と野田本社と途中咸南から我々  
一行に同行せられた野田本社職員  
の包頭を車中に眺めながら野山  
に向つたのである。そして二十日  
午後零時三十分水野野山麓發着  
長、早瀬支隊長、本國郵便局長  
松田本社局長、加藤野山麓局長、  
野田本社局長、杉田本社局長、  
野田本社局長その他官民有志の盛大な  
出迎へ裡に第一の目的地野山に到  
達した事である。五年以前の野山  
と變りなき野山は全く國境の  
線なり、その線は取りには全く

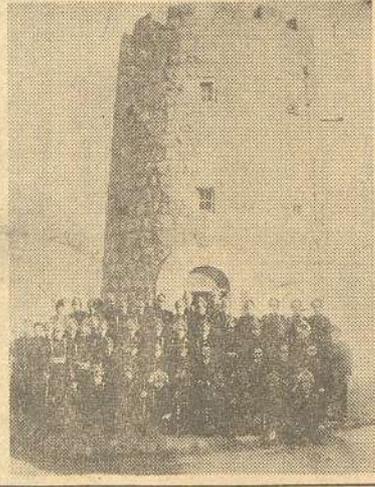
野田本社慰問隊長と私は、早連山麓  
に起き慰問隊長より職員や家族の  
家々を御慰問申上げた上、更に當  
の目標を遂行した事であるが、  
僅半年間の間に、各所の戦部の方  
々は殆ど全部焼けてをられた、五  
年前と變りなき國境線南緯の方々の  
ために新裝隊からわざわざ出張  
して来て下さつた角谷支隊長と私  
の四人が出席した事である。席上  
國境線南緯に海軍してをられる  
高瀬敏彦氏を始め、松山湖大幹事  
當時局下國境線南緯の第一線に立つ  
て活躍してをられる多数有志の方  
々の以前にも増して元氣となつた  
顔を見つけた時、嬉しさを感せず  
にはをられなかつた。席上、慰問隊長  
を中心とする時局談や國境の難境、敵  
軍の襲撃に談話風波に花を吹かせ  
た後、懐かしい四季の慰問、つい  
ぶりに御前申上げた事について、  
これを御前におよぶ事とする。

野田本社慰問隊長と私は、早連山麓  
に起き慰問隊長より職員や家族の  
家々を御慰問申上げた上、更に當  
の目標を遂行した事であるが、  
僅半年間の間に、各所の戦部の方  
々は殆ど全部焼けてをられた、五  
年前と變りなき國境線南緯の方々の  
ために新裝隊からわざわざ出張  
して来て下さつた角谷支隊長と私  
の四人が出席した事である。席上  
國境線南緯に海軍してをられる  
高瀬敏彦氏を始め、松山湖大幹事  
當時局下國境線南緯の第一線に立つ  
て活躍してをられる多数有志の方  
々の以前にも増して元氣となつた  
顔を見つけた時、嬉しさを感せず  
にはをられなかつた。席上、慰問隊長  
を中心とする時局談や國境の難境、敵  
軍の襲撃に談話風波に花を吹かせ  
た後、懐かしい四季の慰問、つい  
ぶりに御前申上げた事について、  
これを御前におよぶ事とする。

野田本社慰問隊長と私は、早連山麓  
に起き慰問隊長より職員や家族の  
家々を御慰問申上げた上、更に當  
の目標を遂行した事であるが、  
僅半年間の間に、各所の戦部の方  
々は殆ど全部焼けてをられた、五  
年前と變りなき國境線南緯の方々の  
ために新裝隊からわざわざ出張  
して来て下さつた角谷支隊長と私  
の四人が出席した事である。席上  
國境線南緯に海軍してをられる  
高瀬敏彦氏を始め、松山湖大幹事  
當時局下國境線南緯の第一線に立つ  
て活躍してをられる多数有志の方  
々の以前にも増して元氣となつた  
顔を見つけた時、嬉しさを感せず  
にはをられなかつた。席上、慰問隊長  
を中心とする時局談や國境の難境、敵  
軍の襲撃に談話風波に花を吹かせ  
た後、懐かしい四季の慰問、つい  
ぶりに御前申上げた事について、  
これを御前におよぶ事とする。

野田本社慰問隊長と私は、早連山麓  
に起き慰問隊長より職員や家族の  
家々を御慰問申上げた上、更に當  
の目標を遂行した事であるが、  
僅半年間の間に、各所の戦部の方  
々は殆ど全部焼けてをられた、五  
年前と變りなき國境線南緯の方々の  
ために新裝隊からわざわざ出張  
して来て下さつた角谷支隊長と私  
の四人が出席した事である。席上  
國境線南緯に海軍してをられる  
高瀬敏彦氏を始め、松山湖大幹事  
當時局下國境線南緯の第一線に立つ  
て活躍してをられる多数有志の方  
々の以前にも増して元氣となつた  
顔を見つけた時、嬉しさを感せず  
にはをられなかつた。席上、慰問隊長  
を中心とする時局談や國境の難境、敵  
軍の襲撃に談話風波に花を吹かせ  
た後、懐かしい四季の慰問、つい  
ぶりに御前申上げた事について、  
これを御前におよぶ事とする。

野田本社慰問隊長と私は、早連山麓  
に起き慰問隊長より職員や家族の  
家々を御慰問申上げた上、更に當  
の目標を遂行した事であるが、  
僅半年間の間に、各所の戦部の方  
々は殆ど全部焼けてをられた、五  
年前と變りなき國境線南緯の方々の  
ために新裝隊からわざわざ出張  
して来て下さつた角谷支隊長と私  
の四人が出席した事である。席上  
國境線南緯に海軍してをられる  
高瀬敏彦氏を始め、松山湖大幹事  
當時局下國境線南緯の第一線に立つ  
て活躍してをられる多数有志の方  
々の以前にも増して元氣となつた  
顔を見つけた時、嬉しさを感せず  
にはをられなかつた。席上、慰問隊長  
を中心とする時局談や國境の難境、敵  
軍の襲撃に談話風波に花を吹かせ  
た後、懐かしい四季の慰問、つい  
ぶりに御前申上げた事について、  
これを御前におよぶ事とする。



野田本社慰問隊長と我々一行の慰問隊員が、  
野田本社慰問隊長より職員や家族の  
家々を御慰問申上げた上、更に當  
の目標を遂行した事であるが、  
僅半年間の間に、各所の戦部の方  
々は殆ど全部焼けてをられた、五  
年前と變りなき國境線南緯の方々の  
ために新裝隊からわざわざ出張  
して来て下さつた角谷支隊長と私  
の四人が出席した事である。席上  
國境線南緯に海軍してをられる  
高瀬敏彦氏を始め、松山湖大幹事  
當時局下國境線南緯の第一線に立つ  
て活躍してをられる多数有志の方  
々の以前にも増して元氣となつた  
顔を見つけた時、嬉しさを感せず  
にはをられなかつた。席上、慰問隊長  
を中心とする時局談や國境の難境、敵  
軍の襲撃に談話風波に花を吹かせ  
た後、懐かしい四季の慰問、つい  
ぶりに御前申上げた事について、  
これを御前におよぶ事とする。

野田本社慰問隊長と我々一行の慰問隊員が、  
野田本社慰問隊長より職員や家族の  
家々を御慰問申上げた上、更に當  
の目標を遂行した事であるが、  
僅半年間の間に、各所の戦部の方  
々は殆ど全部焼けてをられた、五  
年前と變りなき國境線南緯の方々の  
ために新裝隊からわざわざ出張  
して来て下さつた角谷支隊長と私  
の四人が出席した事である。席上  
國境線南緯に海軍してをられる  
高瀬敏彦氏を始め、松山湖大幹事  
當時局下國境線南緯の第一線に立つ  
て活躍してをられる多数有志の方  
々の以前にも増して元氣となつた  
顔を見つけた時、嬉しさを感せず  
にはをられなかつた。席上、慰問隊長  
を中心とする時局談や國境の難境、敵  
軍の襲撃に談話風波に花を吹かせ  
た後、懐かしい四季の慰問、つい  
ぶりに御前申上げた事について、  
これを御前におよぶ事とする。

野田本社慰問隊長と我々一行の慰問隊員が、  
野田本社慰問隊長より職員や家族の  
家々を御慰問申上げた上、更に當  
の目標を遂行した事であるが、  
僅半年間の間に、各所の戦部の方  
々は殆ど全部焼けてをられた、五  
年前と變りなき國境線南緯の方々の  
ために新裝隊からわざわざ出張  
して来て下さつた角谷支隊長と私  
の四人が出席した事である。席上  
國境線南緯に海軍してをられる  
高瀬敏彦氏を始め、松山湖大幹事  
當時局下國境線南緯の第一線に立つ  
て活躍してをられる多数有志の方  
々の以前にも増して元氣となつた  
顔を見つけた時、嬉しさを感せず  
にはをられなかつた。席上、慰問隊長  
を中心とする時局談や國境の難境、敵  
軍の襲撃に談話風波に花を吹かせ  
た後、懐かしい四季の慰問、つい  
ぶりに御前申上げた事について、  
これを御前におよぶ事とする。

野田本社慰問隊長と我々一行の慰問隊員が、  
野田本社慰問隊長より職員や家族の  
家々を御慰問申上げた上、更に當  
の目標を遂行した事であるが、  
僅半年間の間に、各所の戦部の方  
々は殆ど全部焼けてをられた、五  
年前と變りなき國境線南緯の方々の  
ために新裝隊からわざわざ出張  
して来て下さつた角谷支隊長と私  
の四人が出席した事である。席上  
國境線南緯に海軍してをられる  
高瀬敏彦氏を始め、松山湖大幹事  
當時局下國境線南緯の第一線に立つ  
て活躍してをられる多数有志の方  
々の以前にも増して元氣となつた  
顔を見つけた時、嬉しさを感せず  
にはをられなかつた。席上、慰問隊長  
を中心とする時局談や國境の難境、敵  
軍の襲撃に談話風波に花を吹かせ  
た後、懐かしい四季の慰問、つい  
ぶりに御前申上げた事について、  
これを御前におよぶ事とする。



# 白雪皚々の 國境慰問行

池田 生

(三)

前項において述べたやうに白頭山を中心とする對境、長白山脈の峻嶒や、大抵は彼等賊に取つては自然の大野原であり、經路の途邊であり、樂園であるのである。雪嶺や、氷壁に閉ざれた國境の大自らは死せるが如く寂として静し。鐘花浪りの文句を借りへいへば先づこんな氣遣である、悠々なる大自然の姿は五年前と何一つ變つてゐない、自動車は轟々たるエンジン音を響かせながら積雪に閉ざされた狭い國境道路をあへさながら進んでゆく、五六メートルもあらう絶壁の直下には、一帯の雪嶺を引いたやうに鴨綠江が細々と面り、くねりながら對岸の雪嶺の影に消えてゐる、雪のために自動車のホイールが五、五寸もすべらうも

ないかと思つて聞いてゐた所、事つた際運轉手君は

「我々は國境慰問として當然の任務を完了してゐるのであります、然るに國境並に後方の皆様の苦難を、誠なる御慰問を受け更に多分の慰問品を頂戴いたします、此の赤誠に答へるに我々一同は粉骨、碎身、生命を賭して國境慰問の重任を遂行する覚悟です、我々が國境に頭張つてゐる間はどうか意を安じて頂きたい、と御慰問の上は後方の皆様にお傳へ願ひ申し上げます……」と雪嶺の涙を流しながらさう答へるのである、只單に池田主席はかりではなく、後方赤誠溢れる慰問品に對して國境慰問隊の方々の體がこころに響き驚愕をもつて、一連の挨拶を終へてから運轉手君が自動車の中間に據りかけて玩具箱から玩具を取り出して子供達に分け贈る



といつて自動車を停めて呉れたのである、其處で我々一行は言はれが盡に、自動車から降りて運轉手君が指さす谷底をよく見るとはるか二百メートルの絶壁の下に木崩れとなつた、トラックの残骸が横たはりその周囲にうよ／＼してゐる人間が丸で蟻のやうに小さく見へるのである、後で聞いて分つたのであるが、このトラックを運轉してゐたのは好人の邑内に住んでゐた、邑内でも評傳の譽れ行者の兄弟で、舊の正月を控へて一團けして一家揃つて楽しいお正月を迎へんと、北背においてエンジンを買込み、これをトラックに載せて新架坡に向はんとしたのだ。魔の地獄の犠牲となつたのである、私等一行はこの旅行の終りに、私等一行は心からなる挨拶を奉げ再び自動車の人となつたのである、そして、新架坡の途中にある江都第一級の小隊駐在所に到着したのが、午後一時であつた。

同駐在所主席が田君を初め五名の職員並に我々の方の出迎へを受け、早速駐在所に對り慰問の辭を述べたのであるが、これに對して池田主席は

「我々は國境慰問として當然の任務を完了してゐるのであります、然るに國境並に後方の皆様の苦難を、誠なる御慰問を受け更に多分の慰問品を頂戴いたします、此の赤誠に答へるに我々一同は粉骨、碎身、生命を賭して國境慰問の重任を遂行する覚悟です、我々が國境に頭張つてゐる間はどうか意を安じて頂きたい、と御慰問の上は後方の皆様にお傳へ願ひ申し上げます……」と雪嶺の涙を流しながらさう答へるのである、只單に池田主席はかりではなく、後方赤誠溢れる慰問品に對して國境慰問隊の方々の體がこころに響き驚愕をもつて、一連の挨拶を終へてから運轉手君が自動車の中間に據りかけて玩具箱から玩具を取り出して子供達に分け贈る

# 白雲殿々の 國境偵問行

## 池田生

(四)

小農駐在所の方々に名残を惜まれ乍ら再び車上の人となり積雪と壁氷に覆はれた絶壁の險道を新架坡へと急ぐ見れば直下數百メートル白銀の帯を敷詰めたやうな鴨綠江上をノラリ、クラリとムカデのやうな細長い一體が陸續として下流の方に下つてゆく、あれやあ一體何たらうかと車窓から注意して眺めたが、私には分らない、其處で中村さんに向つて

「あれやあ一體何ですか？」と訊ねると

「あれを知らませんか、あれは國境名物の大蛇のオンパレードですよ」

成程そういはれて見ると全く大蛇が氷上を競争し乍ら一大行進を續けてゐるやうに見える

が、現場に行つて見るとあれが皆一抱へも二抱へもあるやうな大きな木材なんですよ——」

と中村さん微笑を湛へながらさも特異そうに説明して呉れる、中村さんの御説明では今が管仲者の雷き入れ時で、夏の間は切倒して置いた、國境の大樹を鴨綠江が雪で氷に閉されるのを待つて、五里も十里もの奥地から牛に引かせてこゝろして鴨綠江岸の貯木場に運び出すのである、我々が使つてゐる一枚の板、一本の木材の總てには、こゝろした、管仲者の職員や人々の貴い血のじむやうな努力の結晶がこもつてゐるのである。

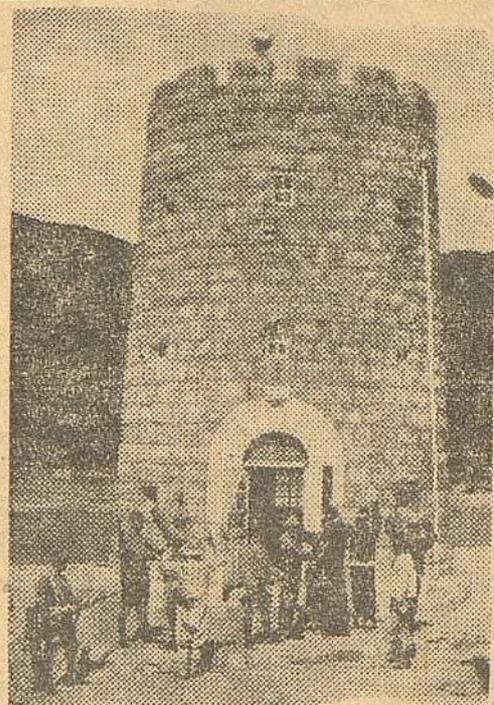
が、現場に行つて見るとあれが皆一抱へも二抱へもあるやうな大きな木材なんですよ——」

と中村さん微笑を湛へながらさも特異そうに説明して呉れる、中村さんの御説明では今が管仲者の雷き入れ時で、夏の間は切倒して置いた、國境の大樹を鴨綠江が雪で氷に閉されるのを待つて、五里も十里もの奥地から牛に引かせてこゝろして鴨綠江岸の貯木場に運び出すのである、我々が使つてゐる一枚の板、一本の木材の總てには、こゝろした、管仲者の職員や人々の貴い血のじむやうな努力の結晶がこもつてゐるのである。

佛嶺や辭職時、地獄谷といったや地名は見當りません、これは國境勤務員によつて付けられた方言であつてよくもまあうまく考へ出して付けたものであると感心させられる、どの時や峰も地獄の道がこの世に持つて來て現したやうに恐ろしく峻険を極め其處通るには、相當心膽の強い者でも念佛の一度や二度は唱へたくなる位である、そして國境には同處の管内にも一ヶ所や二ヶ所の辭職時があるこのよつて來たる由來、故事來歴を一寸簡單にお話してみると、國境といふ所には、匪賊の出沒する殺風景な所とは知りながら、來て見ると、先にもお話したやうに念佛嶺や、地獄谷が底の知れない谷底から天空に聳立してゐるのである、國境といふ所は相當にひどい所だと覺悟は極めて來たもの、平地地帯から來て見ては想像に難くない

で、ガツカリとしてゐる所で、世の一切のものを感嘆するかの如く、眼前に聳立してゐる念佛嶺や地獄谷を眺めては愈々腰を抜かし「なんぼひどいとはいへ、こゝろ迄とは思はなかつた……」とすつかり度膽を抜かれた平地帯の職者達は、連成の辭表を早速執筆したため上、廻れ右をしてスタコラ元來た道に逃げるやうにして引返して行くのである、其處に辭職時などといふ時が出來たのであるが、長期建設戰の非常時局

それから二時間過ぎた午後の四時になつても我々一行の自動車は未だ念佛嶺を抜け切らずに、難行を續けてゐたのである、丁度午後四時半頃冷汗をビッシヨリかき乍ら、やうやく念佛嶺を抜け出んとする時、はるか前方にこの山中で見られないハレーのサイドカーが一臺峠の中腹に横たはつてゐる、近づいて見ると新架坡署のサイドカーで昨年三月對岸の匪賊討伐で一躍勇氣を轟かせた高木警部補が雪の中で突立つて右手をかざ



「本當を言へば、あは國境の牛引運材で、蛇の頭を見て御覽なさい牛が木材を引張つてゐる

國境の大蛇に車上遙かに敬意を表しつゝ念佛嶺や地獄谷、さては辭職時に腰を冷やしなから進む、此處で一寸説明をお付けしなければならぬ事は、讀者の國境の

先のお話の通り氷に閉された上に雪が一尺餘も積り非常に道が危峻であつたために、午後二時に

してしきりと車中をのぞき込んでゐる早速自動車を止めさせた私等一行は、路上に降り立ち挨拶を交した後高木警部補と同車新架坡に急いだのである

「いや實に心配しました午後四時頃には、

起つてゐるのではないかと署長初め一同實に心配しましたよ、まあ無事で宜敷う御座いました、ハ、ハ、……」

と流石に國境の鬼警部補として匪賊達から極度に恐れられてゐる高木警部補は、ハチ切れさうな元氣な面持でさう言ひながら快活そうに笑ふ

「全く遅れて何とも申譯ありません、お蔭様で兩脚の下は汗でビッシヨリですよ……」

と答へると

「いや御無理もない事で寸知事閣下が來られた前日トラツタが鴨綠江上に墜落しましてね、それで實は心配した譯なんです」と説明する、眞紅な夕陽は積雪の連山を染め下眩の月が大白の連山に掛り初めた頃午後六時半我々一行は龍口新架坡署長、温木警林署長、安部專賣所長、森郵便局長、大補警兵分隊長、聯合公警さん等に迎へられて無事到着したのである、そして我々一行の到着を待ちわびて居られた警察、專賣局、郵便局その他各官廳の職員御家族の方々に對して、警察の講堂において嚴問の御挨拶を述べたのであるが、五年前私が訪つた時もやはり夕方、御挨拶も同じ場所ですべたのであつたが、只當時は暗いランプであつたのが、今は電燈に照つてゐたのに氣が付いた時は感無量であつた。

# 白雲嶺々の 國境慰問行

生田池

(五)

その後、我々一行のためにささやかな歓迎の宴が催されたのである。平地帯から来た者の目に、取らぬ間に、真先に感ずる事は國境線の何處の町に行つても官吏の威和が實によまどれてゐる事である。次は我々が想像してゐる以上に駭服してゐられる事である。要するに國境警備の責任は、只單に警察官ばかりではなく萬一匪徒や暴徒があつた場合は町の人々は一協力を以て匪徒に當らねばならぬといふ事である。その上無持が國境の人々の精神三昧、喰ひ入つてゐる體態上、まは睡りすのうちに、

全く兄弟の集まりぢやないかといふた感しを抱かされるのである。悪山嶺も好にも厚昌も、東厚も國境線における町は總てそうであるが、人の少ないせいでもあらう、新架坡の町は特にその上た感しを際くさせられるのである。私が五年前に訪つた時と何等なりなく一同和氣霽たる有様を見た時、外から来た者にはこれが何よりも美しく氣持よく感ぜられ、これによつてこそ國境警備の完成が期せられてゐるのであるといふ事が切實に感ぜられるのである。これと反對に國境の人々の威和がとれてゐなかつたこと、一律どんな

感は國境の町々に對して、常に三人五人、團體を派して町の様子如何にと探らせてゐるのである。第一福利が取られてゐないといふ事でも彼等に知られようもない、彼等にとつては絶好の獲物條件の一となり、虎狼敷々として獲物の獲を伺はよめるようになるのである。

此處で、一つは、是、御照會申さねばならぬ事は、高木警備部補の事である。警備部、東府校などいふこと、首領は聞いた上、でも關羽書を胸の邊りまで生じ、眼光炯々眉を凝らせ烈々たる氣魄を見せる。高木警備部補の人は、



高木警備部の面目知らぬものがある。数年前、前京越西大門警察署の司法主任としてをられ、最近文川警察署長から第一線の新架坡警長に昇進して來られた瀧口警長さんが私に向つて、「私は新架坡の事情は何も知らないが先づ高木警備部がゐるから安心だ……」と宴會の席上、つそりと、私に耳打ちして聞かせて呉れた程である。

丁度昨年一月下旬の頃である。支那事變の進展と共に本國と巧に一派の連絡をとりつゝ東邊道一帯を掠奪、暴行、放火、擄掠の限りを盡しながらのた打ち廻つてゐた東北抗日聯軍と言ふ奴が、遂に對岸の長白縣十三道溝の奥地に來襲し、軍資金募集の名のもとに各所に

にだに想像してゐなかつた、この奇襲にびつくり仰天、匪徒を抜かれ交戦僅三十分にして隊長初め五十餘名の部下は重傷も落子に敗走してしまつたのである。この戦場において敵は死體四箇、小銃三挺、軍銃一挺、彈藥、糧食、被服、多數を擄獲した上、意氣洋洋と凱歌を奏したのであるが、この時吉村巡査は山塞に向つて突撃を敢行中右足に貫通銃創を負ひ全治二ヶ月の重傷を負つたのである。又高木警備部補は敵二挺を身に受けたがそれが警備刀の鞘に當り奇蹟的に一命を免じたのである。討伐によつて匪賊を一度に四名も擄し多數の小銃彈藥被服等を擄獲した事は從來その例を見ず國境警備史上に輝然たる武功の一頁を加へたのである。

(寫眞) 向つて左から中村部長、警備部、武田警備部補、高木警備部補、角谷支局長(十三道溝前哨駐止上にて)。(つづく)

# 自衛隊々の 國境慰問行

池田生

(六)

新設部隊の對岸は本年に入つてからすでに數次に亘つて襲撃を受けてゐる。木村の都新設隊を中心とする大森林も、近では殆ど代探し盡され、鴨綠江岸における内陸の本林業者はその大半滿洲國內に遷出して森林の開發に全力を注いでゐるのである。所がこれら木業者、匪賊の最も好むとする目標であつて、何等は食糧にこまるる作業所を襲撃して衣服や食糧を掠奪し、その手に振舞つてゆくのである。現存するものは、山田池邊

完全に保護する事は最も至難な事であつて、國境の各界では森林警察隊を組織してこれを防禦し、對岸の作業場に派遣して保護警戒、當つてゐるのである。所が去る一月廿一日新設隊對岸鴨綠洲十三道溝二道河子の本林作業所に突如として突撃不明の共匪四十名が襲撃し來つたのである。豫めてこの事あるを警備の報告によつて感知してゐた森林警察隊は、警備員と協力、これにして果敢に奮起する反撃を加へ、強固に抵抗する所と推定二十分、これを潰走せし

この時警備隊には一名の負傷者もなく何等異常はなかつたが、賊側は死傷二個を遺棄し、彼等が命よりも大事にしてゐる長銃一挺及び上ひ彈數多數を遺棄したのである。更に最近に對岸における匪賊の蠢動状況を後方、者の偵察に委ねてお傳へして置く、彼等は自分等の隊をどんな名目で呼んでゐるかといふと稱して東北抗日聯軍と呼んでゐるのである。全くもつて吹き出したくなる位である。金日成の匪隊を初め大小十數の匪隊は

越へて一月十八日長白縣四十里坪江岸より約十餘里の森林中に潜伏中であつた抗日聯軍の共匪陳國長の率ゆる一隊は、同日午後十時頃江岸對岸の大湖上に來襲し、森紛撃戦、布團二枚、時計一個その他約五百餘圓に相當する物品を掠奪し、行き歸けの賦賞に人質二名を拉去して遷走したが人質二名は約二週間の後脱走する隙隙の際を例つて遊歩し歸つて來たのである。又一月廿四日抗日聯軍の陳國長



約一里の地點大北十里の部落に現れ、部落民が發生大事に畑の中に隠してあつたシヤカ草數百貫を密奪して、本據に持ち去つてしまつたのである。更に又一月二十九日陳國長率四挺、長銃百六挺を有する金日成匪二百名の内五十名の一隊は食糧補充のため新設隊の直對岸一道河子裏せんとして滿洲國軍騎兵部隊と遭遇し激戦四時間に及んだが匪賊の頑強なる抵抗によつて勝敗が決せず、夕刻に到つて騎兵隊がやうやく苦戦に陥つた事を知つた方面動林警察隊が急遽に援助に出動、勇戦奮闘の後、遂に匪隊を潰走せしめたのであるがこの戦闘において討伐隊は一名の負傷者を出し、匪隊は死傷一個、糧食を極めた五十彈發自動短銃一挺小銃一挺彈數多數を遺棄して潰走したのである。

の機を伺つてゐた金日成は、二百名の本隊を率ひて、十三道溝四圍城における半島人より成る密果隊部隊を襲撃し、隊員數名との闘争電話を切斷した上、機關銃四挺を以て同部落に猛射を加へ他の一隊はこの機に乗じて部落内に侵入して婦女子に對して襲撃せしめ、暴行を加へ、更に放火、殺戮を敢行の後、一物も餘さぬ迄に食糧物資を悉く掠奪して引揚たのである。この襲撃によつて半島人民三名は遂に匪賊の犠牲となつたのである。現在流石の匪賊も我が國境警備隊と滿洲國軍の緊密なる連絡による大討伐に、手も足も出ず大部隊を二十名、三十名の小部隊に構成せしめ、軍衣に化け、密未慮にあへき乍ら兇暴の限りを盡し乍らの大打ちを待つてゐるのである。金日成は長白縣十九道溝東境半島子溝森林警察隊長谷間に於ける密遊部隊

# 白雪嶺々の 國境感問行

池田生

(七)

以上述べたのが最近における新雪  
披瀝における匪賊の情勢である  
其處で今は少くも管業者の事業に  
ついて述べてみる事にする、國境  
における管業者の事業として、國境  
開發の先驅をなしてゐるのである  
あの峻岳重巒たる國境線において  
雪の夕べ、吹雪の朝、又はは晴雪  
江の水が沸る熱の國境線におい  
て只黙々として商業資源の開發に  
費ひ、或の努力を凝らする管業者  
員には、警察官にも増して言ふに  
言はれぬ苦心があるのである、な  
ぜかといふと匪賊の目標となるの  
は、常に管業者や木村業者、作業  
員であるのである、管業者の事業に

れた作業員の事業は、彼等の最も  
恐れてゐる時代感の目をかすめる  
事が出来、食糧、被服等が比較的  
豊富に貯蔵せられてある所から彼  
等に取りつては絶好の好餌とせられ  
てゐるのである  
X.....X

過去における匪賊の襲撃や被害の  
大半は、皆この作業員が蒙つてゐ  
るのである、彼等は掠奪暴行を作  
業所に加へるばかりではなく、時  
としては作業員を犠牲にして人質と  
し多額金品や食糧、彈薬を要求す  
るのである、そしてもしこれに應  
じなかつたが最後木村の伐採業出  
るからなる被害を被る事は、匪賊

よつてこれを隠蔽した上、首や手  
足を作業場に送り届けて寄來すの  
である、次に管業者は木村を更  
の内に伐採して置いて國境線が雪  
や水に閉ざされてしまふのを待つて  
數里或は十數里もの谷間から牛引  
運材の方法によつて、その一本一  
本を船積川舟の貯木場に運び出さ  
れるのであつたその苦心たるや平  
地帯の者には全く想像もおよばぬ  
ものがある  
X.....X

新雪嶺管内の管業者の管轄區域は  
成鏡川沿岸、三水の二部八ヶ面  
に跨りその廣さ約に三百方里、總  
面積は約に四十六萬七千ヘクタ



廣大な地域内において長期建設  
戦の時局下人的資源の不足に悩ま  
つても、平面的な管業者の事業加  
に對して生産を確保しつゝ前記の

如き幾多の困難を敢然と克服とな  
がら、渾身の力をこめて全管業  
員は一致協力、戦線の開發、  
保護、進出等に對して戦線國に

勇往邁進しつゝあるのである、誠  
實ではあるが以上述べた事が管業  
者の概要である。  
X.....X

二月二十一日午前九時頃のし新  
雪嶺に限りなき名残を惜みながら  
山口署長を初め國境の國手として  
東奔西走、患者治療救済に努めつ  
つある關谷公警、その他各官廳官  
廳者、職員、御家族方の盛大な見  
送りを受けるが、私連一行は高  
木東部捕の案内で自動車に便乗  
し、新雪嶺在所に向つたのである、  
新雪嶺江岸より整立した警備を、く  
り抜き全くカーブの角度を無視し  
て作つた地獄の細道を、自動車は  
右に走り左にくわわながら徐々  
と進んでゆくのである、一間行つて  
ヒヤリ、五間進んでヒヤリとさせ  
られ、全身は全く凍直し麻の下か  
らは汗汗がたらりと流れ出して  
ゐる、ホイールと道幅は五寸も狭  
がない、二、三寸もハンドルを切  
りなれば、もうその先は崖の縁

命からがら難時保駐在所に辿り付  
いたのである、此處は好仁警備署  
と新雪嶺警備署間に於ける新雪嶺江  
岸の最も要衝の地で、武田警備補  
以下〇〇名の警員が駐在し、江岸  
の警察に當つてをられるのである  
先程もお話したやうに無理天理に  
自動車を運ばせ進らぬ事はないが  
普通は難時江岸を徒歩で連絡して  
ゐるのである、因つて難時江岸

「おい、氣を付けてやつて呉れよ  
……」

と注意するそして私に向つて  
「此の道は昔ながら作つたので  
はない、我々が都府民と協力し  
て應急で作つた道ですからね、  
全くカーブの角度なんかは、計  
算に入つてゐないのです……」

と道の出來た由來を説明して呉れ  
る、難時に難行を続ける事三時間  
半、午後三時三十分

X.....X

食の御馳走に預り、先を急ぐため  
武田警備補の案内で再び自動車に  
便乗、新雪嶺江の取水上を新雪嶺  
北嶺の駐在所、地蔵駐在所に向つ  
たのである、或は滿洲國領土内、  
或は新雪嶺江上を難行する事三時  
間、午後三時無事難時江在所に到  
着、此の難時江を渡ませた後、高木  
武田警備補を始め、駐在所員の方  
々とを残りをつゝ、難時江に  
向つたのである

(管業者は前記に述べた管業者作  
業員) (つづく)

匪徒とされないといつた不便な  
土地である、戦時、御家族の方々  
に肥者は早速難時江の探検を始める  
と同時に、後方大衆の赤誠をお傳  
へし自動車に積んで來た玩具を早  
速に供さん達に分ら與へるとする  
こと、よつて、全く見てゐ  
て誤がほれる程のよつて、ひ方で  
ある、一行は此處で心からなる食

# 白雪皚々の 國境慰問行

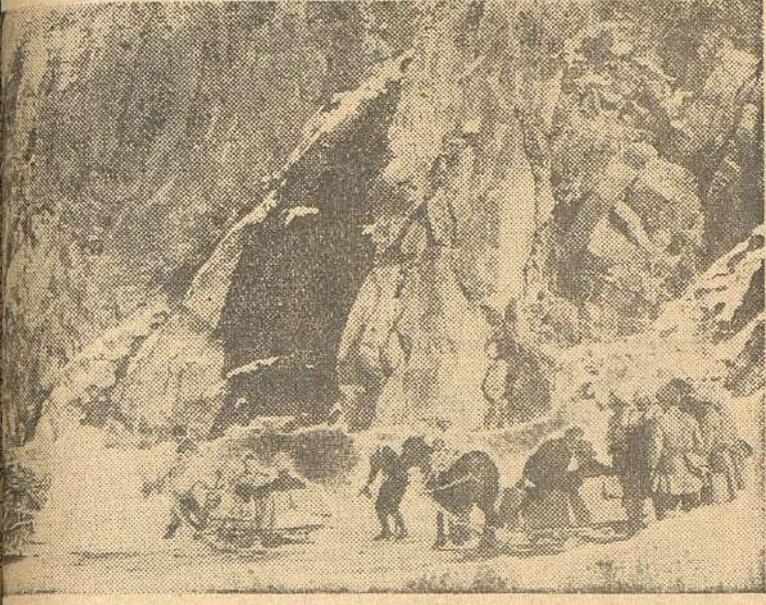
池田生

(八)

新加坡警察署管内における唯線江岸最北端の駐在所である地蔵駐在所には、我々一行に萬一の事があるつてはと、好仁警察署特別警備隊長日高重範警備隊長、日本刀を腰にたはさみ、武装姿もいかめしい隊員六名を率ひ、ソリ二臺を用意して我々一行の到着を待つてをられたのである。地蔵警察署の慰問を済ませた私は、此處を見送つて下さつた高木、武田両警備隊長を偲

の中村部長、角谷支局長と共にソリの人となり、三十餘キロ上流の好仁に向つて進出したのである。此處でちよつとお話したい事は、從來冬期における國境唯一の交通機軸はソリを利用せられてゐたのであるが、最近國境警備道路の完成と共に、自動車交通の便が開け、現在では總て國境線の交通は自動車をもつて行はれてゐるのであるが、國境線においても依然な

嶺の姿でこの區間だけ通つてゐるのである。  
「チャンチユウ飲み、飲みスンガリゆけば……」  
といふ植田國境菓子の作になるスガリ節が思ひ出される。  
X……X  
古風な十數個の支那鈴を兩の頬に釣るした驢馬は、チャン／＼／＼と鈴を鳴らし乍ら遠風を舞もなく積雪に覆はれた山間の遊しい氷上を走つてゆく、とくすれば吹



は、今年は割合に温かいと云ふ事である、それでも感嘆計は零下二十餘度を降り、毛布二枚を頭からガツブリとかぶつてゐても、氷上を渡る風は身を切るやうに冷たく足の指先がきり／＼と痛んで来るそれも鈴の音を聞いてみると、何だか流浪人の持つ一沫の哀愁と共にロマンチックな感に打たれたのであるが、武装いかめしい隊士に肩を嚴重に警戒せられ乍ら進んでゐる事を感じた時、流石に國境だなあーといふ感感を深くさせられるのである。

新加坡署における高木、武田両警備隊長と共に、好仁署には豪集をもつて鳴る日高特設警備隊長があり、大川警備隊長のもと〇〇名よりなる警備隊の勇士を率ひて、雪の夕べ、吹雪の朝警備の重任に當つてゐるので途中王哥、嶺城、農等々の各駐在所を慰問演習しつゝ、最後に仁山駐在所に到着、同駐在所を慰問の後此處で再びトラックに乗りかへ赤陽長白の彼方に渡り警備隊にせまる午後七時半、大川警備隊長、金好仁隊長、松賀小學校長、郵便所長等を初め職員御家族の方々の盛大な出迎へ裡に無事好仁に到着し、一同に對して慰問と後方民衆の赤誠をお傳した後、同地官民有志によつて催された心からなる歓迎宴に参んだのである。  
(雪風は積雪氷に閉された鳥居の上、ソリに乗つて行つた)

# 白雲嶺々の 國境慰問行

池田生

(九)

其處で對岸に於ける匪賊の活動状況を示してみると昨年の秋以來漸く戰の混成第二旅團高木少將の率ゆる討伐隊が討伐を開始して以來、對岸長白縣内において匪賊と數度に互つて交戦し双方共に多數の死傷者を出したのである、流石の匪賊も結構な戦術を凝らして奮へかねて敗退し、金日成の匪隊約二百名は鴨綠江に沿つて下流に下り長白縣と撫順縣の境に渡つたはる老嶺山脈の峻険地帯を這んで此處に本據を置き、江一帯の部落を襲はんとし、民衆を擄奪し、餓死

て白頭山嶺に追ひ詰められてゐた金龍水、金周覽、庄吾等の大小各匪隊も討伐隊が下流方面に移動したのを、これ幸ひとばかりに白頭山嶺を抜出して長白縣内各所に出現して、半島人越江農民の集團部落を襲撃し食糧物資の掠奪を敢行すると同時に一面感んに「産主義宣傳を行ひ同志の獲得に努めつつある」といつた状態である。

▲越へて一月十四日系統不明の共匪の一隊は十七道溝直所德里の半島人部落を襲撃し多額の金品を掠奪逃走したのである  
▲一月十七日、これ又系統不明の共匪の一隊は十七道溝大陽村に來襲し金品糧食を強奪  
▲一月二十六日、共匪金日成の率ゆる百五十名の一隊は五道溝嘉魚河の木村作業所を襲撃し、選材に使用する牛三十二頭其他金品糧食を強奪の上老嶺山脈の奥深く逃走したのである  
▲一月二十八日、八道溝利明水に於て滿軍討伐隊と金日成一隊の匪隊三十名と遭遇交戦し、滿軍側は匪賊一名を射殺し長銃一挺を擄獲したが此の戦闘に於て滿軍側は二名の戦死者二名の負傷者を出したのである

▲二月十六日滿軍討伐隊と金日成一隊五十名が遭遇し、激戦一時間半に互つたが此の戦闘に於て匪賊側に多數の死傷者を出したが滿軍側は二名の負傷者を出したのである  
▲二月十八日金日成一隊百名は十三道溝西崗城に於ける半島農民の第二集團部落を襲撃、同地に於ける警備軍と猛烈な戦闘を交へたのである、此の戦闘に於て匪隊にも多數の死傷者を出したが農民の一名は賊弾に當つて即死を遂げ、二名の負傷者を出し十名は人質として掠奪せられたのである

この際本年に入つてからも、直對岸における匪賊の出現は散々に

てゐるのである、このやうに滿洲國は確立したといふものゝ邊境の治安未だ半にあらず、國境警備の重大性は益々加はつて來るのである、殊に好仁署管下は交通最も不便を極め、匪賊の襲撃には最も好都合に出來てゐるのである、従つて好仁署警備の張り切り方は大したもので、大川署長は日夜特設警備隊員を督勵し勇猛果敢で嚆つてゐる日高警備隊長は〇〇名の部下を率ひて、匪賊をして一歩たりとも鮮嶺に近付けしと悲壯な決意のもとに、日夜血みどろの奮闘を續けてゐるのである、一夜を好仁に明した私は、此處に感南の慰問行を無事に済ませて好仁署のトラックに便乗し、日高隊長の嚴重なる護衛のもとに鴨綠江に沿つて再び思山に歸着したのである、私としては未だ「書きたい事は山程あるのであるが、紙面の都合上皆隨の御禮と御慰問を祈りつゝ、ペンを置くこととする、

を交へた結果一名を射殺し小銃一挺を擄獲したが、此の戦闘に於て討伐隊側にも戦死者一名を出したのである  
▲越へて二月十一日金日成匪の一隊は、八道溝十把河子を襲撃し馬二頭人夫四名を人質として掠奪したのである  
▲二月十四日道溝上湯城里の集團部落に金日成一隊が出現し部落民より一物刺さぬ迄に掠奪を敢行したのである  
▲二月十六日滿軍討伐隊と金日成一隊五十名が遭遇し、激戦一時間半に互つたが此の戦闘に於て匪賊側に多數の死傷者を出したが滿軍側は二名の負傷者を出したのである



領内の部落を襲撃するよりも、物質の豊富な領内の江岸部落を襲撃すべく、密偵を領内に派しては虎視眈眈として領内襲撃の機を伺つてゐるのである、このやうに滿洲國は確立したといふものゝ邊境の治安未だ半にあらず、國境警備の重大性は益々加はつて來るのである、殊に好仁署管下は交通最も不便を極め、匪賊の襲撃には最も好都合に出來てゐるのである、従つて好仁署警備の張り切り方は大したもので、大川署長は日夜特設警備隊員を督勵し勇猛果敢で嚆つてゐる日高警備隊長は〇〇名の部下を率ひて、匪賊をして一歩たりとも鮮嶺に近付けしと悲壯な決意のもとに、日夜血みどろの奮闘を續けてゐるのである、一夜を好仁に明した私は、此處に感南の慰問行を無事に済ませて好仁署のトラックに便乗し、日高隊長の嚴重なる護衛のもとに鴨綠江に沿つて再び思山に歸着したのである、私としては未だ「書きたい事は山程あるのであるが、紙面の都合上皆隨の御禮と御慰問を祈りつゝ、ペンを置くこととする、